



2013年
会報 春号
No.38

目の不自由な方々と共に映画鑑賞を楽しむことのできる環境づくりをしています。



ごあいさつ

シティ・ライツ代表 平塚千穂子

桜も瞬く間に開花して、あっという間に新年度の幕開けです。シティ・ライツもかれこれ12年目の春を迎えます。試行錯誤しながら歩んで来た月日でしたが、その間、たくさんの方々と出会い、別れ、時に応じて支えていただきました。これまで活動を継続できたのは、そういった皆さんの、映画と仲間を大切に想う気持ちがなせる創造力の賜物だと思います。

サラダなどによく使われるルッコラというイタリア野菜をご存知ですか？あの食べるとゴマの風味がして、ちょっと苦いあの葉っぱです。買うと結構お高いので、一昨年から苗ごと買ってベランダで育てています。水をあげ忘れて、カラカラになっているのを見て、「あ！マズい。」と、一気に水やり！という…なんともいい加減な育て方でしたが、とても活力のあるお野菜で、元気によく育ちました。最初は「これは経済的！」と、葉っぱばかり食べてしまっていたのですが、昨年からは食べるのをやめて、そのまま放置しています。すると、細い茎がドンドン上に伸びて、80センチ程の高さになりました。その細い茎は、「なんだ？このバランスの良さは！」と驚くほど真っ直ぐに立っていて、よく見るとその茎に、小さな葉っぱがほどよく交互に生えています。上から見ると全く重なりがなく、そのか細い茎を、倒れないよう支えているんです。その茎の先端には、いくつものつぼみがついていました。つぼみの重さで倒れはしないかと、いつも気にして見ていたのですが、どんなに風の強い日でも全然平気で、相変わらず真っ直ぐに立っています。そのルッコラが先日、花を咲かせました。4つの白い花びらが十字型に開いて、可愛いらしくも品があり、どこか優しげです。こんな花を咲かせるんだなあーと感動しました。このルッコラ、英語名では「ロケット」というそうです。そして、今年のシティ・ライツ映画祭では、ロケット・ボーイが上映されます。かなり、こじつけですが、シティ・ライツもなんだかこんな風に育ってきたような気がしました。ルーズな人がいても、しっかり者が必ずいて、ガンバリ屋さんがいたら、のんびり癒す人もいて、バランスよく調和を保って、か細い茎を真っ直ぐに支えながら、優しい十字の花を咲かせてきてくれたんではないかなと。これからもそんな自然な共同体でいられたらステキだなあ〜と。そんなことを思った春の日でした。



活動報告

このコーナーでは、近日(1~3月まで)に開催された音声ガイド付き上映会や、同行鑑賞会をレポートします。参加された皆さん、企画者そしてボランティアの方々お疲れ様でした。

- ・1/14 「ホビット 思いがけない冒険 2D」 川崎チネチッタ
- ・1/20 バリアフリー上映をみんなで観に行く鑑賞会 「大奥〜永遠〜」 川崎チネチッタ
- ・2/4 「最初の人間」 岩波ホール
- ・2/16 【プロレス観戦】聴覚障害者と健常者の夢のロボプロレス HERO7 音声ガイド付き観戦 新木場1stRING
- ・3/2 「レ・ミゼラブル」 ユナイテッドシネマ としまえん
- ・3/3 「ダイ・ハード ラスト・デイ(吹替版)」 ユナイテッドシネマ としまえん
- ・3/9、10 調布映画祭2013 「東京原発」「ローマの休日」「宇宙兄弟」音声ガイド付き上映
- ・3/16 「遺体〜明日への十日間」 ユナイテッドシネマ としまえん
- ・3/20 江ノ島観光と「戦場のメリークリスマス」上映会 鎌倉市川喜多映画記念館
- ・3/25 「八月の鯨」 岩波ホール
- ・3/31 「ドラえもののび太のひみつ道具博物館(ミュージアム)」 ユナイテッドシネマ浦和

■ 調布映画祭レポート

調布映画祭『東京原発』の音声ガイド制作に参加して

「東京原発」ガイドチーム 田中京子

調布映画祭の上映作品『東京原発』の音声ガイドは在宅で制作する、という募集メールが流れたのは1月なかば。予告編を見て「これは痛快なコメディなのか？問題作なのか？とにかくおもしろそう！」と参加を申し込みました。

広島出身の私は現在、島根原発から30キロ圏内に住んでいることもあって、原発の話題にはナナメに構えてしまう。おとしは原発見学に行ったし、去年は自然エネルギーの講座にも通ったし。この映画に何がでてきてもドーンと受けてやろうじゃないの！とDVDを鑑賞。…うんっ！おもしろーい！何がって、会話が。こむずかしい専門用語を連発しながらも、クイクイっとのみ込めてしまう。もっとも、キャストは実力ある個性派ぞろい。主演の役所広司をはじめ、岸部一徳や吉田日出子、段田安則らが脇を固めていて、おもしろくないはずはないのです。原発に対してありがちな一般人の対応が、それぞれの個性に組み込まれていて、自分ならこの人と同じかなと共感させる。原発の是非には関心がない人でも、登場人物のやりとりについて引き込まれて考えてしまうんじゃないかという軽妙さ。3.11以前に作られたことが不思議なくらい、こんにちの問題がモザイクのようにちりばめられていて感心します。

在宅制作の方法は、メンバーが作成したエクセルの初稿をグーグルで共有して意見を出しあい、修正した2稿をスカイプ会議で検討するというものでした。わからない事はいろいろあれど、何とか会議に参加できました。東京のガイド勉強会に参加するのは、地方からだ時間と経費がかかります。去年までは夜行バスで往復する弾丸ツアー(笑)もやりましたが、こういう形で参加できると負担が少なくありがたいです。

会議は深夜にもおよびましたが、修正稿ができてひと安心、ついつい映画談議に。このラストシーンはどうなのよ？という話になりました。私は初見のとき、「えー、こんなベタな終わり方なの！」とまず思い、次に「まあ、わかりやすくいいかな。」と収め、そのあと「いや待てよ。だって頑丈にできてはるはずなんだから、そんなことは起こらない。ありえないよね、ははは。単なる象徴的シーンね。」というところに落ちついていたので、メンバーにそう話したのです。

…が、「そんなことは起こらない、ありえないこと」が2年前に起こったのです。さてさて、わが家も避難にそなえて用意をしないといけません。数日後には県の避難計画が練り直されて発表されるらしいし…。でも、そんな心配をしなくていいようにできないかな。合言葉は「映画で日本を変える」、そこで一同・ガッツポーズ！(笑)

新★コ〜ト〜始動カ!!

Let's Challenge!!

「最近、音声ガイドが増えてきたのはとってもいいことだけど、音声ガイドがないからその作品は観ないっていうような声を聞くようになって、それってどうなんだろう？と思うんだよね」というような平塚リーダーの声から始まることになったこの企画。もちろん、音声ガイドだけでなく字幕朗読ももっとも増えて、いつでも誰でも好きなときに好きな映画を観に行ける環境になることは大切。とは言え、年間に公開される何百本という作品全てにとはいきませんよね。せつかく、シティ・ライツに関わって映画の魅力を再認識したからには、例えガイドがなくて少々分かりづらくても、劇場までのアクセスが多少大変でも、一人で、あるいはお友達と、ガイドヘルパーさんと…でかける味わいもまたよいのではないのでしょうか？このコーナーが皆さんの新しい楽しみを発見するささや

かなお手伝いとなれば幸いです。

というわけで、第1回めは、平塚リーダーからの提案を「それは面白いかも？」と受けてしまった私が書くことになりました。

今では毎週末に同行鑑賞会や上映会が開催されるようなありがたい環境になっていますが、シティ・ライツ発足当時は何もかもが手探り状態。一つの鑑賞会を実現するにも、ガイドをする人の問題だけでなく、劇場との交渉などいろいろなステップがあるのでそう多くとはいきませんでした。それでも、みんなで力をあわせれば、こんなに素敵な時間が過ごせるんだという満足感で満たされていました。でも、人間、やはり慣れてくるとだんだんと贅沢になってくるものです。この劇場は小さいから映写室に入れてもらうのはちょっと難しそうとか、上映期間が短いみたいだから難しそうなどと思う作品も観たくなってきます。そこで、いざ！自分で映画館へということになるわけです。

はじめのころは友達を誘って出かけて、観終わった後に分りにくかった場面について教えてもらったり、感想を言い合ったりしてミニお茶会？のような時間を楽しんでいました。ときどき友達が「あの場面には何が映ってたと思う？」などと聞いてきたことにピタリと正解を出すことができるのにまりしたものでした。私の映画力も結構あがってきたものだ！などと厚かましくも悦に入ったりして…。

それはそれで楽しい日々でしたが、相手もいつもいつも見つかるわけではありません。私の仕事が普通の週休二日でないこともあり、平日にスポッと時間があくこともあります。それならちょっと冒険？して一人で行ってみようということになったのです。

一人で行く場合は邦画に限られてしまうのは当然ですが、その他にも比較的セリフが多くてストーリー展開について行けそうなものを探すという手間がかかります。

また、劇場への行きかたを調べるというミッションも発生します。ネットで調べられる地図を音声で確認するには限界もあるので、駅から少し距離がありそうな時は、プリントアウトして持って行ったり、どうしてもないときは劇場に電話をしてナビゲートしてもらったこともありました。近そうな時は近くの目標物などを調べて、道々人に聞いて行きます。白杖を持った視覚障害者が映画館への道を聞くということで、ちょっと不思議そうにされることもよくありますが、そんなことを繰り返しているうちに、一人でも行ける映画館が増えて行くのが楽しかったりもします。

劇場にさえたどり着けば後はしめたもの(笑)。何度も一人でいると「私、この前もご案内したんですよ。今日ごらんになる映画、まだ観てないんですけど面白そうですね。」とか、「いつも来ていただいてありがとうございます。楽しんでくださいね。」などと劇場の方から言われることもあります。また、たまたまお隣同士になった方と帰り道をご一緒することになって、楽しく会話が弾んだり、最もすごい経験としては上映作品の監督にお声をかけていただき、お茶をご馳走していただいたこともありました。

肝心要の内容の理解の方ですが…。事前に調べて行っても、もちろん百発百中とはいきません。そもそも内容が今ひとつ、ということもありますが、それは視覚障害者であることとは無関係。それより、思いのほか台詞が少なくてあれあれ？何が起きているのかさっぱりわからんと思うことも何度か経験しました。それでもめげてはいられません(笑)。背景に聞こえてくる音とセリフに集中しながら、自分の知っている知識も総動員して観るのはちよっぴりエネルギーも必要ですが、それも楽しめるだけの余裕が出てきたら本物？

最後に、そんなエピソードをひとつ。「東京家族」のワンシーンで、両親が横浜のホテルに泊まるというのがあり、その背景にジェットコースターに乗った人たちの叫び声のような音が聞こえました。部屋の窓からの夜景も綺麗というセリフから、このホテルというのはインターコンチネンタルホテルに違いない、と私は勝手に思ったのでした。果たして正解だったのか？まだ誰にも確かめてはいませんが、例え、違っていたとしても私の中ではちゃんと画が描けたのでそれで満足。これからもそんな私流の映画ライフをぼちぼちと楽しんで行きたいと思います。



特集

視覚障害者サポートグループ 縁（ゆかり）
音声ガイド付き上映会 応援ツアーに参加して

こんにちは、シティ・ライツ会員 川崎の岡部です。

今回、2月9日から一泊の予定で福島県いわき市「ゆかり」音声ガイド付き上映会&復興応援ツアーに参加してきましたので簡単ではありますが旅行内容を書いてみようと思います。

今回のツアーは、昨年開催したシティ・ライツ映画祭の時にいった、福島県いわき市の視覚障害者サポートグループ「縁(ゆかり)」さんを応援するための募金で、集まったお金を使って「ゆかり」の皆さんが、地元で企画した音声ガイド付き映画のイベントにシティ・ライツのメンバーを招待してくれるという形で行われました。

まずは、朝東京駅に集合。ここから高速バスで福島に向けて出発です。

高速バスって知っているけど乗ったことないな？どんな感じだろうか？座席に着席、意外に座り心地いいー。など考えている間にツアーメンバーは、遠足気分雑談、お菓子の交換などなど、とても賑やかなスタートになりました。個人的に、料金も安いし、トイレも付いているしなかなかバスっていいなと思いました。僕は、お菓子以外にも缶ビールを買っていたので、初めからとてもいい気分でした。やっぱり旅行は缶ビール片手に始めないと！(笑)リラックスしまくっていて、シティ・ライツの貸し切りバスのような盛り上がりでした。他の乗車のみなさん、うるさくてごめんなさい。(笑)

乗車時間2時間半。あっという間に、福島湯本インターに到着。

ここでゆかりメンバーの自家用車に乗り換えて、昼食場所の湯本「鳥静(とりせい)」でランチタイム！お迎えチームのゆかりメンバーと、ここで簡単な自己紹介をしてから、ボリュームもあっておいしい鳥料理をいただきました。お店の中も居心地の良い座敷で、とてもいい感じでした。

そんな最中に、少し大きめの地震。久々だったのと、旅先だったのもあって少しビビっていると、ゆかりメンバーの人たちから、「あーこれは、直下型だねー。」と普通に話しているのに少し驚きました。地震も生活の一部になっているのかなーと、少し複雑な気持ちになりました。

さてこれからのこのツアーの大事な目的の半分です。

ゆかりの皆さんは、音声ガイドの映画に招待してくれただけでなく今の福島を、一泊二日の予定の中で、出来るだけ感じてもらえるようなスケジュールを企画してくれました。おそらく、ものすごい熱意と時間をかけて準備をしてくれていたと思います。

ゆかりの皆様、本当にありがとうございました。

食後まずは、小名浜にある市民放射能測定室「たらちね」へ。

ここは、震災後およそ半年後から行政ではなく民間の力で立ち上げた放射能測定ができる施設です。体内の放射能測定の出来るホールボディカウンターと、食品など、物の放射能を測る機会も備えていました。ここで「たらちね」の方から、詳しい機械の説明と震災後から現在に至るまでの放射能のことに関してのお話を聞かせて頂きました。改めて見えない、においもしない、被爆していてもわからない、ということの怖さを感じました。そういう中で、この様な施設が一般の方でも利用できて、被爆に関しての相談にも対応した事業を継続していることの重要性を感じました。(この施設は、ホームページもありますので詳しい事業の内容を知りたい方は、PCで検索してみてください。)

また、「たらちね」のご厚意でツアーメンバーの中から3人限定で内部被曝の測定の出来るホールボディカウンターの体験もさせていただきました。一般の人でも予約を取って五千円、次から三千円の利用料をお支払いすると利用できるそうです。その機械ですが、僕も特別に体験させていただきました。3人のメンバーに選ばれた時は、あっ、いい体験ができていいかなーぐらいの気持ちでしたが、待っている間に「高い数値が出たらどうしよう？」と、不安感を感じ始めました。あらためて、福島で生活している人たちの不安や、リスクなどを今までよりも強く考えさせられました。

さて測定開始。検査用のいすに座り5分座っているだけです。いす自体は、少し後ろに傾いているような歯医者さんの椅子みたいな感じです。測定場所も、特に何か動作音がするわけでもなく、個室のようなところでもない普通の空間でした。3人とも内部被ばく検査終了。ツアーメンバー3人とも数値には、問題ないとの結果でした。あー。良かった！良かった！安心しました。

さて次は、ゆかりメンバーの車で津波被害の出た小名浜港、豊間海岸を通過、高久(たかく)にある仮設住宅に行きました。

この移動中の車内から、視覚障害のあるメンバーにも分かるように車窓から見える景色を、とても丁寧に説明していただきました。津波で壊れた堤防がまだ修理されずに土嚢を積んで応急処置をしている場所や、建物が流されて空き地になっている場所。また、その少しだけ離れている場所には、以前のように家が立ち並んでいる光景などがとても印象に残りました。津波の情報は、テレビや、ラジオなどでもとても怖いと思っていましたが、実際にその場所を、通りながら説明を聞いていると、今までよりも何かとても心の深い処から恐怖を感じました。

さて、車は、高久(たかく)仮設住宅に到着です。

ここで、シティ・ライツ映画祭で一番最後に、舞台上からご挨拶された元気なおじいちゃん(根本さん)の現在住んでいらっしゃる仮設住宅の集会室を見学させていただきました。根本さんは、映画祭の時と同じで、声を聞いているだけで元気をもらえる、とても明るい方でした。震災後の避難場所から、現在の仮設住宅まで、とても過酷な生活環境だったことなどを、お聞かせいただきました。おそらくツアーメンバーみんな、根本さんの元気を土産にもらって帰ってきたと思います。

さて次は、懇親会会場と、宿泊場所になる。木村眼科クリニックに行きます。

もうすっかり日も沈んで、ここまでの工程で色々なことを考えさせられる体験をしていましたので、とても真面目な気持ちになっていました。そしてここからは、そんな気持ちを、ほぐしてくれるような、ゆかりメンバーの心のこもったおもてなしが始まりました。

まずは、ゆかりメンバーとここで合流したダンコタロウさんを加え、自己紹介をしました。そして、懇親会と宴会？を、あわせたような、とても賑やかなおしゃべりと、美味しく、たっぷりの料理を堪能させていただきました。地元のお酒・又兵衛、おのぎきの握り寿司や、デザートには白土屋(しらとや)のジャンボシュークリームなどなど。次々に食べ物飲み物がふるまわれ、とても楽しい会になりました。まだまだ胃袋に色々収めたのですがいっぱい食べた！としか記憶がありません。(笑) あっ、手作りクッキーも食べた気がしてきました。楽しい話の内容は、色々ありましたがプライベートな内容もありますので秘密という事で。よろしくお願いします。(笑) 皆さん、普段より饒舌になっていましたよ。

あっという間に夜も深まり皆さん、就寝準備に入ります。

この旅行の、また変わっているところになりますがシティ・ライツメンバーの5人は、ゆかりメンバーのご自宅に、ホームステイのように泊らせていただき、残りのメンバーはクリニックの院長さんのご厚意で、無料で、クリニックに泊まることになっていました。

僕は、クリニックグループでした。どんな場所に寝るのかな？とと思っているうちに案内された場所は、本当の病室でした。1室2台のベッドのある部屋に、一晩入院してきました。なんだか本当に病気にかかっているような気分になったのは、きっと僕だけではないのでは、ないでしょうか？(笑)

これで一日目の予定が終了です。

皆様に伝わったかわかりませんが、とても内容の濃い1日目でした。また、今この文章を書いている、ゆかりメンバーの行き届いたおもてなしの数々を、とてもいい気分で思い返すことができます。院長先生、ゆかりメンバーの皆さん、ありがとうございました。

さて2日目の始まりです。

とてもおいしい朝食を用意していただきお腹いっぱいになったところで、ようやくこのツアーの目的の半分の映画鑑賞になります。

クリニックからタクシーですぐの場所にある、いわき駅前 ポレポレいわきに向かいます。

映画館の入口に、「今日の放射線量は…」と表示が出てるのが今、福島にいるのだなーと改めて感じさせられる出来事でした。

そして映画の始まりです。

ここからは、ダンさんのいつもながら素晴らしい音声ガイド付き映画の始まりです。

客席は満席！ダンさんの事前解説が始まり、地元の参加者も、ツアーメンバーも、音声ガイド付き映画の世界にぐいぐいと引き込まれていきます。なんだか映画館自体の空気がみんなで映画を見るぞ！みたいな不思議な高揚感に包まれていく感じです。

今回の映画は、2本立てです。

午前中の映画は、「二十四の瞳」です。昭和29年製作 木下恵介監督 高峰秀子主演。瀬戸内海の小豆島を舞台に小学校の新任女性教師とその教え子たち12名の昭和3年から、18年間を描いた作品です。

とても有名な作品でしたが、僕は、名前しか知らず、まだ見たことのない名作の一つでしたので、とても楽しみにしていた作品でした。この映画の感想は、僕なりに書いてみようと思いましたが、まだまだ、消化不良なのでうまく表現できないのですが、時間を空けて、また再度見たくなる映画、という感じでした。また、バックに流れている音楽もとても印象に残る作品でした。

ダンさん！機会があればまた音声ガイド付きで開催してほしいです！

そして二本目の映画は、「椿山課長の七日間」です。2006年製作 西田敏行・伊藤美咲主演。作家・浅田次郎氏の小説を、映画化した作品です。ある日、突然死んでしまった中年サラリーマン（西田敏行）が、自分がやり残した事の為に3日間だけ現世に戻ってくることを許されるのだが……。なんと……。その姿はうら若き美女（伊藤美咲）に！変わって帰ってくるという設定が、とても面白い作品です。

原作も面白かったのでとても期待していました。ちなみに、西田敏行さん、伊藤美咲さんも福島県出身だそうです。見た感想は、原作と設定が違ったり、ラストが変更されていましたが、作品のイメージみたいなものは原作の感じを残していて、とても笑えて、涙も流せる面白い映画でした。

最後に時間が押してしまい、短い時間ではありましたが、震災の際に、津波被害を受けられた、視覚障害者の方の体験を聞かせて頂きました。本当に危険な状態に合われていて、ほんの少し間違えば命の危険があるという、とても怖い、また貴重なお話でした。

ここまでで映画観賞会は、終りになります。

今回、ゆかりさんの企画した上映会は、劇場内だけでなく昼食の場所の確保や誘導なども含めて、細かいところまで気持ちのこもった対応をして頂いた素晴らしい上映会でした。また、みんなで同じ映画を、音声ガイドで見る楽しさを、十分に堪能できたのではないかと思います。みんなで同じ所で笑ったり、悲しいと表現できるって、とても楽しいことですね！

さて最後に電車の時間までお土産タイムです。いわき駅ビル内でお買い物開始！

じゃんがら、ままだおる、薄皮饅頭、シーフードケーキ、漬物などなど、色々な商品が並んでいました。特に、ゆかりメンバーから微妙なお勧めの仕方をされた“じゃんがら”は、皆さん買うか買わないかで真剣に悩んでいたのではないのでしょうか（笑）ゆかりメンバーの解説「うーん。そうですね。自分で買うことはないですね。袋のデザインはとても目立つのでお土産にはいいですよ。」「味ですか？ うーんあまいよねー。」バームクーヘン屋さんでは、明日から発売予定のバレンタインをイメージしたチョコレートコーティングのしてある新商品を試食させて頂きました。

そして、ここでゆかりメンバーとお別れをしてスーパーひたちに乗車して帰ってきました。

ゆかりの皆さん？それとも福島の皆さん？は、とにかく心のこもったおもてなしが得意な、とてもいい人たちでした。

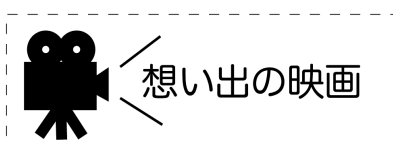
旅行自体は、一泊二日だったのですが、心の満足度は、もっと長い時間、旅をしてきたような気がしてきます。

また、その半面、自然災害の怖さと原発による多大な被害が、現在もまたこれからも、影響を与え続けることの重大さも考えさせられる旅でした。

シティ・ライツの会員の皆さん！音声ガイド付きツアーはとても楽しいですよ！

次回、企画が出たときには、ちょっと勇気を出して参加してみるのはいかがでしょうか？

2013年3月14日アイメイト協会より 岡部の福島、音声ガイド付き映画鑑賞ツアーの報告でした。



—思い出は、名画とともにいつまでも—。

このコーナーでは“思い出の映画”にまつわる投稿エッセイをご紹介していきたいと

思います。皆さんの汗と涙の人生をセピア色に彩る素敵な名画の数々をエピソードとともにお寄せ下さい！！

『映画！大好き人間になったわけ』

(布施 千鶴子)

視力を失うと言うハプニングが人生の中で起きようとは 思ってはいませんでした。

「映画」とは 私にとって 人生の中でオアシスみたいなものです。

昭和20年。小学生になった私は学校の授業が終わると映画館に連れて行ってもらいました。

観た映画は「原爆の子」で、次に観た映画は「ひろしま」。3作品目は「長崎の歌を忘れじ」に、次は「モンテパルの夜は更けて」と言う、なんとも戦争がらみの映画でした。

しかし ある日…電信柱に洋画のポスターを目にしました！まだ 視力のある時代でしたので 総天然色!?カラーのポスターで、タイトルは「赤い靴」で、少女でしたから(笑) 胸をときめかして映画館へ観に行きました。この時は私は小学校六年生の時で、色の付いた映画を観たんです。その魅力に取りつかれ、映画大好き人間の私にとって、映画館に行って映画を観る言うことに色々和我慢したりしました。お小遣いは当然貯金し、お昼の弁当代を貯めたりして、大好きな映画を観に行っていました。

映画のジャンルはSFからミュージカル、アドベンチャー、歴史物、アニメーション、洋画や日本映画にとられず、映画を片っ端から観に行ったものでした。

しかし、18歳の時に、私は視力を一夜にして無くしてしまったのです。

原因がわからず、ほんとに真っ暗闇になってしまった時に、何よりも大好きな映画が観れなくなってしまった悲しみや、そして自分の人生を消してしまおうかと何度も考えてしまいました。もしかしたら視力がまた戻ってくるのではないかと!?戻って欲しい！また見える様になりたいと言う祈りが交差していましたが、両親の心情を思うと、どうしても自らの命を絶つこととはできませんでした。

ところが祈りが通じたのか、片眼ではあるんですが、かすかに、ほんとかすかですが、視力が戻ってきたんです。視力を測ると0.01でしたが戻ったんです。うれしくてうれしくて、その時に1939年?だったと思いますが、「風と共に去りぬ」を一生懸命にスクリーンを観ていましたが、その時は何も見えず、ただバックに流れている音楽と英語の台詞しか聴こえてきませんでした。

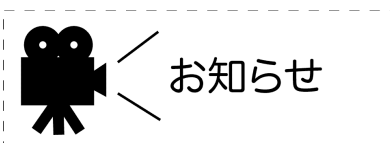
もちろん この映画には副音声はついていません。英語の台詞で何を話しているのか私には解りませんが、それでも「映画って、なんてすばらしいんだろ！」と改めて感動したものです。

今 現在、私の眼は視力が落ちてきていますが、今は副音声というものができ、日本にいながら世界中の色々な映画を観れることの楽しさを感じています。

副音声を製作してくださっている皆さまに、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

最後に、ほんとに自分の命が尽きる時まで、大好きな映画と共に居たい！そして観続けていたいと、心より思っております。

感謝



お知らせ

■新規会員のご紹介

(2013年3月31日までにご入会いただいた方々です。)

[正会員] ・植森真由美(東京都昭島市在住) ・菅原 良成(東京都練馬区在住)

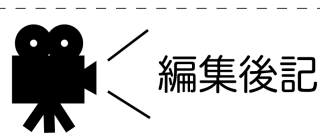
・平 重忠(東京都八王子市在住)

■第6回 City Lights 映画祭 開催決定！

6月30日(日)、江戸東京博物館 大ホール(墨田区両国)にて、昨年に引き続き「第6回 City Light 映画祭」を開催いたします。今年のテーマは「みんなで踏み出そう！明日への一歩へ」。年に一度、シティ・ライツが総力をあげて手づくりするバリアフリー映画祭。今年にご来場いただく皆さま、そして支えて下さる全ての皆さまに、明日への一歩への勇気と希望を、実感していただける映画祭を目指します。上映作品は、元 NASA のエンジニア、ホームー・ヒッカムの自伝「ロケット・ボーイ」を映像化したアメリカ映画『遠い空の向こうに』と、黒澤明・木下恵介・市川崑・小林正樹の四騎の会が脚本を書いた、痛快時代劇『どら平太』の2本です。また、震災復興支援として募金活動も行います。今回は、「福島こどものみらい映画祭」への活動支援金を集めます。トークショーのゲストとして、「福島

こどものみらい映画祭」の実行委員長・久我和巳(くが かずみ)氏をお招きして、未来を担う「こども」というファインダーを通して社会を見つめ直し、次世代に受け継いでいける価値ある社会を創りたいという、映画祭発足の想いや、映画のチカラ・福島のチカラについて、子供たちが創ったショートフィルムの上映と共に、じっくりお話をお伺いしたいと思います。

第6回 City Lights 映画祭のお申し込みは、ゴールデンウィークを目処に開始いたします。正式リリースは、メーリングリストや、ホームページ・ブログを通じてお知らせいたしますので、皆さん、日程だけは、今から空けておいてください！！



編集スタッフ、校正係や音訳スタッフも大募集！
希望の方は会報編集課まで！

(会報編集課 ノンちゃん)

岡部さんに原稿を寄せていただいた「いわきツアー」、私も参加してきました。2011年3月11日以来、ずっと気になりつつ足を運ぶことができていた地。ほんの限られた場所と時間ではありましたが、ひとこと「行けてよかった」。そんな思いでいっぱいです。

政府の対応などなど問題が山積していることはもちろん事実で、このままでよいということではありません。でも、そんな中でも日々をしっかりと生きている方々に接することで、私たちの方がエネルギーをいただいて心の復興の機会をえたような気さえしました。せっかくこうしていただいたきっかけを生かして、ずっとずっと忘れずに、心に留めて自分にできることを探し続けて行こうと、気持ちを新たにしました。こんなチャンスに恵まれたのも映画のお陰。改めて感謝です。

そう言えば、今年最初に観た映画は「希望の国」。福島原発事故をテーマとした作品でした。これも何かのご縁かもしれませんね。

(会報編集課 吉川)

みなさんこんにちは。春は過ごしやすく最高の季節。ただひとつ。花粉症をのぞいては。ヨーグルトが有効とよく聞きますね、一応食べ続けてはいます。〇〇がよいと、何年もいわれ続けているということは特効薬がないということなのでしょう。

まあ、座して治るのをまつのみです、今年も。

先日、アカデミー賞が発表されましたね、作品賞のアルゴは見にいけませんでしたが、レ・ミゼラブルは見ました。ヒュー・ジャックマンのバルジャンはちょっと違うなと思っていたのですが次第に慣れてきました。そして最後はもう……。感動しまくりでした。

学生時代に原作を読み、卒業旅行でパリにいきました。ユーゴー美術館にも行き、直筆の原稿もみてきました。レミゼには自分なりに、ストーリーをもっているのがハードル高くて鑑賞に臨みましたが、ハードルをかるくこえてくれました。今年も、よいスタートが切れたかな、と実感、では皆さん、よい新年度をそして、よき映画ライフを。

お忙しい中、今回の会報作成に協力いただいた方々には、大変感謝しております。ありがとうございました。

皆さまの投稿を、心よりお待ちしております。宛先は、kaihou@citylights01.org。次回の発行は7月10日。投稿される方は、6月第2土曜日までをお願いします。『会報のデータ送信』を希望の方には、会報のテキストメール送信にも対応します。ご希望の方がいらっしゃれば、会報編集担当アドレス<kaihou@citylights01.org>まで、氏名と会報の送信を希望するメールアドレスを記入して、お申し込みください。

2013年冬4月10日発行 編集：吉川俊平、斉藤恵子、石坂春香
発行者：バリアフリー映画鑑賞推進団体 シティ・ライツ
事務局：〒114-0016 東京都北区上中里 1-35-15 TEL&FAX 03-3917-1995
E-mail mail@citylights01.org URL http://www.citylights01.org

